

再びその人らしい生活に

# ふれあいひろば

2018年 冬号 Vol.83

愛仁会リハビリテーション病院

大阪府地域リハビリテーション  
地域支援センター

- 住所：高槻市白梅町5番7号
- 電話：072-683-1212
- URL：http://aijinkai.or.jp



- 1面 Rプロジェクト進捗状況
- 2面 (連載) チーム医療活動のご紹介③ ICT回診
- 3面 認定看護師からのメッセージ③
- 4面 患者さまだより⑩ / 在宅サービスセンターだより



『ふれあい広場2017年夏号Vol.81』にも掲載致しました「Rプロジェクト」の進捗状況を報告致します。

高槻病院の新病院移転後、愛仁会リハビリテーション病院の空きスペースの改修や運用を進める「Rプロジェクト」を推進して参りました。昨年12月11日には、リハビリテーションセンターが従来の3階から2階へ移転いたしました。新たなリハビリセンターでは、運動スペースが大きく拡張されただけでなく、日常生活動作や言語・高次脳機能訓練なども有効的に行えるようになりました。さらに外来部門、義肢装具の採

# Rプロジェクト

## 進捗状況

副院長 兒島 正裕

型・調整専用室、薬剤相談室など新設スペースを設け、より集約的に効率的にリハビリテーション医療が提供できるようになりました。1階・3階からエスカレーターにて移動することが可能となり、利便性も向上しています。

さらに1月9日から新たな病棟(8階)がオープンしました。8階病棟の特徴は個室や特床室を増床し、患者さまやご家族の幅広いニーズにお応えできるよう準備しております。

JR高槻駅に直結している3階は、「地域の医療と介護」に利用いただくための、地域開放型スペースが設けられ、「地域交流スペース」、「図書室・コモンズスペース」、「地域医療コンシェルジュ」とともに、従来1階にあった在宅サービス部門も3階に移動となり、今後各部門の連携が強化されます。

患者さまや地域の皆さまに質の高いリハビリテーション医療を提供することができるよう一層努力して参りますので、当院のさらなる飛躍に御期待ください。



R P R O J E C T



# ICT回診

感染対策室 副主任  
富家 敦子



## チーム医療活動のご紹介 ③

ICT(感染制御チーム)とは、インフェクションコントロールチーム(Infection Control Team)の略称で、病院内で起こるさまざまな感染症から患者さま、ご家族、職員を守るために活動を行う組織です。私たちのチームは、医師・看護師・薬剤師・検査技師の4職種で構成され、横断的に病院全体の感染対策活動に従事しています。

毎週水曜日には院内でICT回診を実施しています。この回診では、抗菌薬(菌を殺したり、増殖を抑制する働きの薬)を使用している患者さま、耐性菌検出状況(薬に対して抵抗力を持った菌)、発熱が継続している患者さまのすべてを把握、治療内容や感染対策の実施状況を確認し、指導を行っています。また、病院内の環境ラウンドも定期的に行っています。感染性廃棄物が適切に廃棄されているか、水回りなど菌が繁殖しやすい場所をチェックしています。そして、インフルエンザや感染性胃腸炎が流行する冬の時

期には、どこの病棟で発熱、下痢や嘔吐の症状が何人であるかを把握し、アウトブレイクを起こしていないか、直ちに察知できるようにしています。私たちの活動は、言わば病院内のパトロール役のような感じです。

最後に、感染対策の基本は手洗い(手指消毒)を実践することです。病院だけでなく家の中や外には、目に見えないたくさんの菌が付着しています。菌は目では見えません。知らないうちに菌を病院にもち込んだり、もち出したり、広げたりする可能性があります。そのためICTでは、面会の方への手洗い協力ポスターを掲示しています。また全職員へは、「耳にタコができる」ほど、何度も繰り返し手洗いの重要性を説明し指導を行っています。

愛仁会リハビリテーション病院では、私たちICTだけでなく看護部門とリハビリ部門の感染リンクスタッフも活動しており、病院をあげて感染予防に取り組んでいます。



## 認定看護師 からのメッセージ VOL.3

愛仁会リハビリテーション病院には3人の認定看護師  
(摂食嚥下障害看護認定看護師、感染管理認定看護師、  
脳卒中リハビリテーション看護認定看護師)が活動しております。

### 認定看護師ってなに？



認定看護師とは看護師免許取得後に専門分野の経験を積み、さらに専門分野の知識、技術を学び、認定試験に合格した看護師です。

#### 認定看護師による 相談窓口のご案内

##### \*摂食嚥下障害看護認定看護師

口から食べる支援をしています。食事の時のむせや食事介助の方法など、食べることにすることでお困りのことなどを一緒に考えていきます。



##### \*感染管理認定看護師

病院内で起こる様々な感染症から患者さま、ご家族、職員を守るために対策を行っています。入院中のことだけでなく退院後の家庭での感染対策など、身近な感染に関する疑問などございましたらご相談ください。

##### \*脳卒中リハビリテーション看護認定看護師

脳卒中の再発予防のための健康管理や、後遺症による高次脳機能障害、身体障がい、生活や介護などでお困りのことなど脳卒中全般について一緒に考えていきます。

#### \*場所\*

愛仁会リハビリテーション病院3階  
正面入り口 エスカレーター前



##### 摂食嚥下障害看護認定看護師

毎週火曜日・9時～12時

##### 感染管理認定看護師

毎水曜日・9時～12時



##### 脳卒中リハビリテーション看護認定看護師

毎週木曜日・9時～12時



予約・費用は必要ありません。設定日以外でも院内におりますのでお気軽にご相談ください。

INTERVIEW  
患者さまより⑰  
**河原和樹さん**



河原さんは平成27年春に走行していたダンプカーに撥ねられる交通事故に遭われました。すぐに急性期病院に搬送されましたが、一時意識不明に陥られました。その後治療を経てリハビリテーション目的に当院へ入院、同年秋には歩けるほどに回復され、自宅に退院されました。

記憶面の後遺症(高次脳機能障がい)が残りましたが、退院後は高校生より通われているダンススクールで、インストラクターという将来の目標を掲げ、ダンスに勤しんでおられます。今回、河原さんが通われているダンススクールにお邪魔して、ご本人・お母さん・ダンススクールのオーナー藤野氏【(株)DOUBLE FLY Entertainment】にお話を聞かせていただきました。

インタビューは、ダンスの練習後にさせていただきました。「もう一度ダンスをしたい。」というご本人の強い思い、そしてご家族・藤野代表を含めたDOBULE FLYの方々が繋がって支えておられるからこそ、河原さんの今の生活があると感じました。記憶障がいは残存されていますが、電車に乗る際は、スマートフォンを代償手段として活用され、発症前に勤められていたコンビニのアルバイトも(可能な範囲で)再開されたとのことでした。大きな事故に遭われましたが、少しずつ河原さんらしい生活を歩んでおられる現状を聞かせていただきました。ありがとうございました。

## Q.当院を退院されて2年が経過しましたが、どのように過ごされていますか？

**A.ご本人** ダンスにはどうしても戻りたかったです。今はスタジオに通っています。(退院後)ダンスを再開した頃、(記憶障がいにて)場所が分からなくなってスタジオを通り過ぎて、スタッフに迎えにきてもらうこともありました。藤野さんに感謝です。

**A.お母さん** お医者さんからは(高次脳機能障がいの影響で)ダンス復帰は難しいと言われていました。ただ、本人の強い思いやDOBULE FLYのスタッフさん・メンバーの方々が、入院中から「和樹待っているから。」と支えてくれていましたので、いつかダンスに戻れるのではないかと考えていました。

**A.藤野代表** 最初ダンスに復帰した時は、どのように本人と接し、ダンスも指導していけばよいか迷いもありました。ただ、本人がダンスをしたい気持ちや思いは、受傷前も後も変わっていませんでしたので、まずは『発表会に出て踊る』という目標を持たせ、一緒に準備をすすめてきました。



左:河原さん  
右:藤野さん【(株)DOUBLE FLY Entertainmentオーナー】



## 愛仁会高槻 在宅サービスセンターだより



在宅サービスセンターケアプランセンター愛仁会富田  
ケアマネジャー 竹中 佳子

好きだった車の運転中に突然脳梗塞を発症され、その後遺症として左片麻痺、高次脳機能障がい(後遺症として)が残ったYさんを紹介します。

定年退職後の生活を楽しまれ、東北を旅行中の発症でした。救急搬送された旅先の病院で急性期の治療を終えて、ご自宅の高槻市に戻り、愛仁会リハビリテーション病院に転院して来られました。リハビリを頑張り、退院できるまでに回復されましたが、在宅生活のなかでも運動やリハビリを続けていく必要がある、ということとケアプランの依頼がありました。

ケアマネジャーとして、Yさんに意欲的にリハビリを続けてもらえるデイサービスの事業所を提案し、出来れば楽しんで利用していただきたいとの思いでプランを検討しました。しかし、初めて介護保険の認定を受けられたYさんは介護保険のサービスがどんなものなのか想像しにくく、特にデイサービスを利用することには抵抗がある様子でした。

介護保険のサービスについて説明し、Yさんにはどのようなサービスを受けていただくことが必要で、どんなタイプの事業所が合うのか、奥様からもご本人の嗜好や生活歴、趣味や得意とされていたことなどをお聞きして、一緒に考えました。そこで得られた情報で、Yさんは入



院中もリハビリに意欲的に取り組まれていたことから、専門的な機器のあるリハビリに特化したデイサービスと、半日のデイサービスだけでは奥様の介護負担を考えて、1日のリハビリ専門職のいるデイケアを合わせて紹介しました。体験利用していただき、納得して利用できそうな事業所を yourself で選んでいただきました。

退院された今は、日常生活の動作がより安全にできて安心して過ごせるよう、デイサービス、デイケアに休まず通いリハビリに励んでおられます。

ご利用者それぞれが、持つておられる能力に応じて、これからどう暮らしていきたいかという思い(意向・目標)をケアマネジャーとしてご利用者と共に確認し、多様にある介護サービスを効果的に利用してもらいながら、目指す生活に向かって進んでいけるよう支援していきたいと思っています。

※高次脳機能障がい:脳卒中や交通事故などによる脳損傷が原因で、脳の機能のうち、言語や記憶・注意・情緒といった認知機能に起こる障がいを高次脳機能障がいといいます。(認知症とは異なります。)